



NO.408

R3年7月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

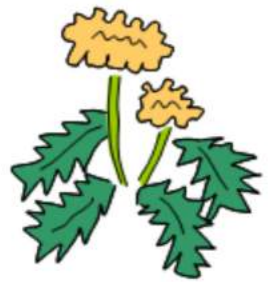
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「徒然なるままに…」

施設長 木下昭二

三気の里は、町の中心部からは少し離れていますが、高台に位置している事もあり、東に阿蘇山系を臨み、西には遠景ではありますが金峰山が見られる風光明媚な環境にあります。

ひと月くらい前の話しになります。雲仙普賢岳の火砕流から30年…というニュースがありました。私の当時の記憶として、巨大化した溶岩ドームの崩壊が火砕流となったその勢いは凄まじく、一瞬にして多くの命が奪われた惨状は、今も鮮明に残っています。三気の里も、距離や緊迫感の違いですが、阿蘇中岳が活火山であることから、一抹の不安を覚えた事もニュースでのあの映像から甦ってきました。その普賢岳の噴火をきっかけにして、長崎県在住の方を緊急一時避難的に受け入れるという繋がりが出来ました。その後、時間を経

て正式に入所される流れとなりましたが、数年前に無事に地元のグループホームに戻る事が出来ました。利用者さんの個人的な事は、情報管理の観点から書けませんが、スマートな体形で端正な顔立ちの彼は、実習の学生さんを始めとして、とてもモテモテの人気者でした。その施設さんとは、今でも繋がりがあり、4月の桜の花の咲く頃に行われる「がまだすマラソン大会」には招待して頂いています。(ここ2年はコロナ禍

で中止になっていますが…)天候の良い日には、三気の里から見える、今は穏やかな普賢岳の頂を臨みながら、Hさんの笑顔を思い懐かしんでいます。

一方、4年ほど前まで三気の里に入所しておられ、加齢によって高齢者の施設へと移行されていた元利用者さんの訃報が届きました。本来ならば関わりがあった多くのスタッフのご弔問に…と思っても、今の

コロナ禍の中では、きちんとお別れする事すらままならない状態で、代表者のみで参列させて頂きました。比較的若くしてご両親と死別なさったご本人は、ご両親と共にお世話なさっていた方が、引き続き面倒を見て下さり、家族以上に親身になって関わっていただいた事で、勝手に代弁する事は出来ませんが、本当に幸せな暮らしを送られた方であったなあと思っています。

そのような状況でしたので、三気の里に入所されてからも、当たり前のようにして、お世話なさっている方のごところに月に2回のペースで、バスや電車を乗り継いで一人で帰省されてきました。とても働き者でもあったので、繁忙期にはお手伝いの為に長期に帰宅される時もありました。陽気な方でもあり、行事のたびに歌や踊りを披露して、愛くるしい笑顔をを見せて下さっていました。また、県内の祭りやイベントの情報通

でもあり、帰宅の際にあちこち出掛けられては、私達スタッフにも行った先のパンフレットや案内を見せて色々話して下さいました。写真を撮る事も大好きで、山鹿の灯籠祭りや花火大会など、書ききれないくらいの多くのイベントの写真に、葬儀の際にも囲まれておられました。撮る事の方がメインでご自身の写真は少なかったように記憶しています。祭壇のお写真も素敵な笑顔でした。改めて彼にそのような生き方を与えて下さり、最期まで見守ってくださった吉永様に、天国へと旅立たれた故人に代わって感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

松島さん、大の仲良しだった福田さんに逢う事は出来ましたか？(故人の想いに寄り添うべく、敢えて実名にさせて頂きました。) 慎んでご冥福をお祈り致します。







# 7月



pixta.jp - 4402511

## 「新たな形」

先日、今年度初めての班レクリエーションを実施しました。コロナ禍で“出来ること”をと内容を検討し、三気の里の施設内で出来ることを考え、散歩、ドライブ、e-スポーツを行いました。e-スポーツでは太鼓の達人やマリオカートがあり、初めて体験される方もいらっしゃいましたが、皆さん画面を見ながら、コントローラーを動かすと自分の車が動いたり、画面に何かしらの変化が起きる事が分かってきたようで、楽しそうに、そして時には真剣な表情になりゲームをされていました。マリオカートではSさんがとても上手で、最初は「これSさんが操作しているの？」思うくらいでしたが、手元を見てみるとしっかりコントローラーを操作されていてびっくりしました。普段の作業活動では気付かなかった利用者の方の才能に新たな発見がありました。おやつは、マクドナルドのポテトを購入して、みんな嬉しそうに食べられていました。コロナ禍でこれまでとは違った形のレクリエーションとなり、始めは少し混乱している利用者さんもおられました。最後はみんな楽しそうにされていました。

今後も色々な計画を考え、利用者の皆さんの新たな一面を見つけていきたいと思いました。

支援員 山本 晴香



## 「姿勢と言葉の重要性」

前年度から療育課に配属になり、一年が経ちました。日々利用者の方々とネット作業を取り組む中で変化したこと、成長したと感じる事がありました。

Aさんは、作業中に背筋が曲がってしまいます。身体の緊張を取り除き、不必要な筋肉の固まりをなくし、スムーズな身体の動きに繋がればと考え取り組みをしました。椅子を変え、足元に発泡スチロール板を置いて、しっかり踏みしめられるように支援しました。最初は慣れないのか、あまり使おうとされませんでした。支援員皆でアプローチを続けていくと、少しずつ背筋を伸ばして座れるようになってきました。美しい姿勢で座っているAさんに「座り方が綺麗ですね、素敵ですよ」と伝えると、とても喜ばれます。今では自然と美しい姿勢を保てるようになっていました。作業への意欲も高まり、提供した課題を黙々とされています。他にも変化があり、作業を終えると「できました！」とスタッフが驚くくらいの大きな声で教えてくれます。毎日意欲的に取り組まれている証だと考えています。

もともとは姿勢を美しく！と思い取り組みを始めましたが、思わぬ収穫でした。ポジティブな言葉は人を喜ばせる、そして成長させるのだなと感じました。

支援員 早瀬 寛



### 「代弁者」

4月から新しく担当をさせて頂いているSさん。ある日Sさんと二人で散歩に行こうと「散歩に行きましょう」と声をかけました。Sさんは「活動」と私に言われました。私は「活動ではなく、散歩をしましょう」と再度声をかけると、今度は、手を強く握られ、私の顔を見て「活動、活動」と言われます。その時は意味が分からずそのまま散歩に行きましたが、散歩中も「活動」と言われていました。後に前担当からSさんは散歩に行く時は「活動」と言われることを聞きました。私の目標は、利用者さんの代弁者になることです。私事で恐縮なのですが、私は物心ついた時から吃音があります。言葉が出にくい時には身振り手振りを使い、出やすい言葉に言い換えます。それでも出ない時には紙に書きます。指を差して伝え、伝わって欲しいと願います。それでも伝わらない時には、諦めます。

Sさんは私の手を握って、顔を見て「活動」という言葉で「散歩」を伝えてくれました。私はうまく受け取ることが出来ませんでした。思いが伝われば、不安から解放されます。私が代弁者になってあげられれば、安心を感じてもらえます。思いが伝われば、つながることが出来て世界が広がります。Sさんの担当になって3ヶ月が過ぎました。Sさんの世界を広げてあげられるような支援員になっていけるようSさんのことを知りたいと思います。

支援員 相馬 敦

### 「折り紙をきっかけに」

「元杉さん、花の折り紙を折りたいです」と、Tさんが声を掛けて下さったことで一緒に折り紙を折ることになりました。「何を折りたいですか？」と尋ねると、「紫陽花を作りたいです」とのこと。私自身、手先が器用ではないのですが、YouTubeの力を借りて挑戦することになりました。花びらの部分は役割を分けて、葉っぱの模様も工夫しながら作成しました。画用紙に貼る時は、共同作業で「もう少し左かな？もうちょっと下です」等、集中しつつ楽しみながら作ることができました。日頃、折り紙をする機会があまりないのですが、Tさんが声を掛けて下さったことがきっかけで、折り紙に触れる機会が持て、季節を感じる事ができました。この折り紙を通したプチ女子会は定期開催となりました。「今度は、何を作りたいでしょうか？」と会話も弾むようになり、春には桜を、秋にはコスモス、そして、お雛様や鯉のぼりと幅が広がっています。これからも、この時間を楽しんでいけたらと思っています。

支援員 元杉 朋世

### 「2作品目完成～★」

前回も紹介しましたが、三気の里では毎週金曜日の午後はクラブ活動の日で、5班では体操や手形絵をしています。手形絵は1作品目が完成し、みんなで次は何を作ろうかと話し合いをしました。その中で5班の壁に飾れる位大きな木をみんなで作りましょう！となり、構想を支援員で練り、1ヵ月かけ利用者14名、支援員5名で大きな木を作り上げました。それだけでは寂しい感じだったので、フラミンゴやアヒルを足して、、出来上がり～早速壁に飾ってみました。みんな嬉しそうな顔で、記念写真★

次は、秋に向けて紅葉に染まる大きな木を作る予定なので、その時にはまた報告します。

支援員 玉永 咲希





# 療育雑記

「地域と共に未来へ」

サービス管理責任者

今池一成

入所施設として開設された三気の里にとって、地域との関わりは施設運営の中で、とても重要な要素を占めている。季節ごとの行事で多くのボランティアさんに来園してもらうことその他、

私たちが利用者さんと共に地域の行事に参加することも多くあり、私自身は今まで、そこに“壁”といったものを感じることはなかった。

特に大津町では、“福祉まつり”というイベントが毎年開催され、地域との関わりが密であり、利用者さんも楽しみに参加されている印象を受けている。

また、三気の里の他、グループホームや地域活動支援センターの業務も担当していた時期もあり、それまでとは違う別の角度から地域と関わることもあったが、地域との関りに苦慮した経験は殆どない。

しかし、就労継続支援B型の業務を担当し始めると、これまでの経験とは違った感覚を感じ始め、私自身に突き付けられた課題が徐々に明確になってきた。

Aさんは、母親と二人暮らし。以前は工場に勤めていたが、人間関係に躓き、働く自信を失い、10年ほど家事手伝い。親亡き後を考えた母親の勧めで、初めての福祉サービス利用。

Bさんは、高校卒業後、県外へ働きに出る。しかし、発病と共に熊本に戻られる。入院、グループホームを経て、現在は両親と暮らししている。

Cさんは、発病と共に仕事を辞め、入退院を繰り返しながら、様々な症状と付き合いながら、現在アパートで一人暮らし。

以前受け持ったケースのDさんは、本人含めて家族3人が発病、父親の気力で何とか生活が保てている。

“今までとは違った感覚”

それは、地域の中にいながらも「参加」が乏しい状況にあるということ。

一緒に行動する仲間がおらず、

選択肢も少ないAさん。

病状を近隣に知られたくないという思いが強いBさん家族。

病状が安定せず、一人で出かける不安が大きいCさん。

新興住宅地に引っ越され、近所付き合いが希薄なDさん家族。医療の目的が「健康」であるとした場合、福祉の目的は、「生活の概念でいうところの「参加」に当たる。

私たちの福祉の仕事は、事業ごとにその役割は異なっていて「参加」を促進していくという目的に関しては、概ね共通のものと言えるのではないだろうか。

前述した4名だけでなく、似たような生きづらさを抱えた人は、障がいの有無に関わらず、もしかしたらそれぞれの地域でも多く存在しているかもしれない。

また「参加」を阻害する要因は、本人や家族だけにあるものではない。だからと言って、地域が「参加」することを拒んでいるかという点、そうでもない。

「地域と共に未来へ」という言葉を、私自身に投げかけるとしたら、今の私にできることは

「地域づくり」であろう。三気の会が熊本地震後より始めた「陣内食堂（子ども食堂・地域食堂）」の取り組みは、食を通してネットワークづくりであり、ここで繋がった仲間は、私にとってすぐに相談できる地域でのパートナーとなった。

そして、日々の療育・生活支援を通して、本人さんの生きづらさに目も向けながらも、社会環境へアプローチしていくことの重要性にも気付かされた。

例えば「Aさんの選択肢が広がるためには」「Bさん家族が不安を感じず生活できるようにするには」「Cさんの生活が安定するような連携とは」「Dさん家族を見守る地域づくりとは」……

就労継続支援B型の事業を通して感じた、普段なかなか目に見えない日々の生活に直結する課題を一つひとつ解消していくことで、その人にとっての「地域と共に未来へ」という言葉が動き始めるような気がしている。



# 会食と防犯講習

「ハラスメントを考える」

支援員 八木 良江

ハラスメントとは、様々な場面における「嫌がらせ」「いじめ」などが定義としてあります。相手の人権を無視した不快感を与える行為であり、人権問題の一つとされています。

最近世間では、色々なハラスメントでのニュースが目立つようになっていきます。何気ない一言、態度などで人を不快にさせることは多々あると思われる。福祉施設でのハラスメントは、「パワハラ」「モラハラ」が特に多いとのこと。第三者が見て、「ハラスメントに当たるのではないか」と思われる事例もあります。

三気の里は男女混合チーム制で、年齢層も様々です。より良い支援を目指すには、互いに気持ちよく働くことのできる環境が必要だと思えます。職員一人一人がハラスメントについて理解し、言動・行動に配慮出来るよう、今後は勉強会なども計画していく予定です。

# 課長便り

「育成」

業務課長 本田 誠

「やってみせ、言ってみせ、させてやらねば、人は動かし。話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。」海軍軍人であった山本五十六氏の言葉です。新人が独り立ちする為には、丁寧に物事を伝えていく必要があります。しかし、スムーズに伝わらないことが多々あります。その際、「なぜ？」と考えると、腹が立ち、相手を責めることになりがちです。しかし、この言葉を思い返すと、伝わらなかつた責任を自分に置くことができ、自分自身のできていなかつたことを反省することが出来ます。私には、この言葉を体現してくれた上司がいます。悩み、迷い、間違いを成長の一環として、温かく見守って頂いたお陰で今の私が存在します。人と人の距離間に配慮が必要な毎日ですが、こんな時だからこそ、悩み、考え、想って、相手の心に響くような声かけ、姿勢が求められます。

す。この言葉を、今後も私自身の教訓として、常に自問自答しながら、より良い職場になるよう努めていきます。

# イベント食

栄養士 前田 はる美

利用者の方はこの1年、新型コロナウイルス感染予防のため、帰宅と外出の制限を行ってきた。そんな施設の生活に少しでも変化を・・・と、毎月1回、昼食にイベント食（弁当）を実施することになりました。利用者の方は、1週間前から楽しみをおさえきれないよう、食堂に貼られた献立表を指差し心待ちにされています。また、廊下や階段ですれ違つ度に「〇月〇日お弁当！」と話されるので、「本当に楽しみですね。」と返すと、とても嬉しそうな表情をされます。私達もつい笑顔になります。ちなみに、健康面の理由で日頃頑張っている特別食の利用者も、イベント時は制限なくみんなと同じものを食べています。

いざ当日、あれほど待ちに待った弁当もあつと言う間に完食です。

さて、今回は全国駅弁シリーズ（他県の駅弁を再現）やバイ

キングなど、みなさんに楽しみにしていただけるような食事の提供を計画中です。





# 7月スケジュール



betree314

- 2日 (金) 創作クラブ、芸術クラブ
- 9日 (金) 嘱託医来診
- 10日 (土) 自治会活動
- 14日 (木) わっふるオンライン口座  
「自閉スペクトラム症及び発達障害」
- 16日 (金) 夏祭り、アンパの日
- 21日 (水) 誕生会
- 23日 (金) 音楽クラブ

- 24日 (土) 4R白川、帰宅実施予定  
救急救命研修
- 27日 (火) 3班レクレーション
- 28日 (水) 4班、5班レクレーション
- 30日 (金) BeTREE勉強会  
毎週月曜日 訪問理容サービス  
毎週木曜日 ローソン移動販売  
BeTREE  
<営業時間>8:00~18:00



支援員 元杉 朋世

先日6月12日に、スタート会を開催させて頂きました。毎年、ホテルの宴会場を貸し切ってコーズ料理を円卓で囲みながら食べていますが、昨年に引き続きコーズの影響を受け、今年も三気の里での開催となりました。コロナ禍でなかなか外出も難しいので、少しでも楽しんで頂きたい、そんな気持ちで準備をさせて頂きました。

スタート会のトップバッターを飾ったのは、2年目の職員による、マジックショーでした。準備の段階から、ステージに大きな箱が運ばれてきて、利用者の方・職員ともどもワクワクしながら始まるのを待っていました。そのマジックは、「人が入った箱に剣を刺すが、中にいる人はなぜか無事！」といった内容で、まるでマジックの様なマジックショーでした。(大袈裟ですが)



もう一つの出し物では、懐メロ特集で利用者さんからリクエストのあった、「赤いスイートピー」や「銀座カンカン娘」を職員が歌いました。有名な曲とあって、知っている所を一緒に口ずさむ利用者の方もおられ、とても盛り上がりました。お弁当は浜勝のロースかつ弁当を、美味しく頂きました。

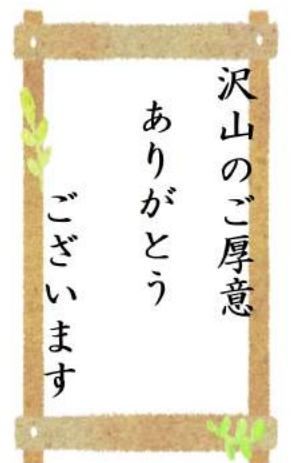
【寄付】  
三気の里家族会様  
春野 宗敏様

【物品】

- 児玉 静子様 角田 幸様
- 小牧 博典様 東坂 富士代様
- 岡崎 範子様 牛島 智子様
- 田中 満子様 亀崎 幸久様
- 保々 裕子様 井上 律子様
- 荒牧 貴子様 森川 琇介様
- 三気の里家族会様
- 【ボランティア】
- 赤星 央子様

【後援会】

- 村嶋 元子様 牛島 智子様
- 萩原 久雄様 勇 明子様
- 坂梨 清美様 堀内 興様
- 財賀 由子様 中原 喜徳様
- 田中 基幹様 山崎 日出男様
- 清田 勝実様 井上 律子様
- 早田 澄江様
- (有) 西日本防災システム様



沢山のご厚意  
ありがとうございます

ございます